

2020年度
業績予想（上期・通期）修正説明資料
2020年10月23日



本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

内容

I. 2020年度 業績予想（上期・通期）修正

- | | |
|--------------|----|
| 1. 総括 | P3 |
| 2. 当初公表比較 | P4 |
| 3. Q2・下期の考え方 | P6 |
| 4. 配当 | P9 |

I. 2020年度 業績予想（上期・通期）修正

1. 総括

- 上期においては、販売面でコロナ影響もあったものの、金属相場の上昇から在庫評価益を計上したことなどもあり、営業利益・経常利益は前回（2020年5月29日）公表値から大幅に上振れる結果となりました。純利益については、当初上期に予定していた大口資産の売却が、翌期以降となる見通しとなり、経常利益増益でカバーできず、5億円強の未達となりました。
- 通期においては、上期修正要因に加え、資源セグメントにおける親子間取引の見直し等により、当初想定純利益を確保できる見込みです。

単位:億円

	5/29公表			10/23業績修正			(B) - (A) 増減率 (%)			通期		
	(A)	上期	下期	(B)	上期	下期	上期	下期		Q1影響 (実績)	Q2影響 (予想)	下期影響 (予想)
連結売上高	873	409	464	910	453	457	4	11	▲1	19	24	▲7
連結営業利益	14.8	7.6	7.2	40.0	29.6	10.4	170	289	44	8.8	13.2	3.2
連結経常利益	10.0	5.6	4.4	42.0	33.7	8.3	320	502	89	13.6	14.5	3.9
連結純利益	32.8	32.4	0.4	32.8	27.1	5.7	0	▲16	1,325	6.6	▲11.9	5.3

2. 当初公表比較

(1)市況・生産量

		5/29公表ベース			10/23業績修正			5/29公表比差分			
			上期	下期		上期	下期	Q1影響 (実績)	Q2影響 (予想)	下期影響 (予想)	
市況	亜鉛(米\$/t)		1,900	1,900		2,150	2,300				
	鉛(米\$/t)		1,700	1,700		1,773	1,700				
	銀(米\$/toz)		15.0	15.0		20.4	22.0				
	円/米\$		108.0	108.0		106.9	106.0				
	米\$/豪\$		0.620	0.620		0.658	0.710				
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	88.6	40.6	48.0	89.7	41.7	48.0	▲1.4	2.6	0.0	
	鉛製品(千t)	93.0	49.5	43.5	92.1	48.6	43.5	▲0.0	▲0.8	0.0	
	電気銀(t)	360	185	175	345	170	175	2	▲17	0	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ラスプ	568	334	235	556	318	239	0	▲16	4
		計	568	334	235	556	318	239	0	▲16	4
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ラスプ	48.7	27.7	21.0	41.5	23.6	17.9	0.0	▲4.0	▲3.2
		計	48.7	27.7	21.0	41.5	23.6	17.9	0.0	▲4.0	▲3.2
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		ラスプ	21.3	13.6	7.7	21.2	12.0	9.2	0.0	▲1.6	1.5
		計	21.3	13.6	7.7	21.2	12.0	9.2	0.0	▲1.6	1.5

2. 当初公表比較

(2)収支

		5/29公表ベース			10/23業績修正			5/29公表比差分			
			上期	下期		上期	下期	Q1影響 (実績)	Q2影響 (予想)	下期影響 (予想)	
売上高 (億円)		873	409	464	910	453	457	19	24	▲7	
営業利益 (億円)	製錬		25.6	12.5	13.1	45.2	34.2	11.0	6.5	15.2	▲2.1
		在庫評価損益	10.8	10.3	0.5	28.9	25.9	3.1	6.6	9.0	2.6
		非鉄スラグ	▲3.0	▲1.5	▲1.5	▲7.1	▲5.2	▲1.9	▲1.5	▲2.1	▲0.4
		上記以外	17.8	3.7	14.1	23.3	13.5	9.8	1.4	8.4	▲4.3
	資源	▲19.3	▲6.2	▲13.1	▲14.0	▲11.0	▲3.0	▲0.5	▲4.3	10.1	
	電子部材	3.9	0.4	3.5	2.5	1.2	1.3	0.8	0.0	▲2.2	
	環境・リサイクル	5.0	1.5	3.5	6.0	3.0	3.0	1.0	0.5	▲0.5	
	その他※	3.9	1.6	2.3	5.0	4.0	1.1	0.6	1.8	▲1.3	
	調整額	▲4.5	▲2.3	▲2.2	▲4.5	▲1.6	▲3.0	0.5	0.3	▲0.8	
	計	14.8	7.6	7.2	40.0	29.6	10.4	8.8	13.2	3.2	
経常利益 (億円)		10.0	5.6	4.4	42.0	33.7	8.3	13.6	14.5	3.9	
純利益 (億円)		32.8	32.4	0.4	32.8	27.1	5.7	6.6	▲11.9	5.3	
EBITDA (億円)		65.1	32.8	32.4	90.3	54.8	35.6	7.5	14.5	3.2	

※「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

3. Q2・下期の考え方

(1)市況・生産量

		Q1実績 (A)	Q2予想 (B)	下期予想 (C)	通期前提 (A+B+C)	
市況	亜鉛(米\$/t)	1,959	2,340	2,300	2,225	
	鉛(米\$/t)	1,670	1,876	1,700	1,737	
	銀(米\$/toz)	16.3	24.4	22.0	21.2	
	円/米\$	107.6	106.2	106.0	106.5	
	米\$/豪\$(1-12月)	0.659	0.657	0.710	0.684	
製錬セグメント 主要製品生産量	亜鉛製品(千t)	21.9	19.8	48.0	89.7	
	鉛製品(千t)	24.3	24.4	43.5	92.1	
	電気銀(t)	82	88	175	345	
資源セグメント CBH社関連(1-12月)	粗鉱処理量 (千t)	エンデバー	-	-	-	-
		ラスプ	152	166	239	556
		計	152	166	239	556
	亜鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	-	-	-	-
		ラスプ	12.1	11.5	17.9	41.5
		計	12.1	11.5	17.9	41.5
	鉛精鉱生産量 (千dmt)	エンデバー	-	-	-	-
		ラスプ	7.7	4.3	9.2	21.2
		計	7.7	4.3	9.2	21.2

3. Q2・下期の考え方

(2)収支

		Q1実績 (A)	Q2予想 (B)	下期予想 (C)	通期前提 (A+B+C)
売上高 (億円)		219	234	457	910
営業利益 (億円)	製錬	9.2	25.0	11.0	45.2
	在庫評価損益	7.8	18.1	3.1	28.9
	非鉄スラグ	▲2.3	▲2.9	▲1.9	▲7.1
	上記以外	3.7	9.8	9.8	23.3
	資源	▲3.9	▲7.1	▲3.0	▲14.0
	電子部材	0.9	0.3	1.3	2.5
	環境・リサイクル	1.7	1.3	3.0	6.0
	その他※	1.7	2.3	1.1	5.0
	調整額	▲0.9	▲0.7	▲3.0	▲4.5
	計	8.7	20.9	10.4	40.0
経常利益 (億円)		12.8	20.9	8.3	42.0
純利益 (億円)		8.6	18.5	5.7	32.8
EBITDA (億円)		20.0	34.8	35.6	90.3

※「その他」に係る営業利益には、「土木・建築・プラントエンジニアリング」セグメントに係る営業利益を含む。

3. Q2・下期の考え方

(3)資源セグメント

- 上期は粗鉱処理量・粗鉱品位ともに安定せず、当初想定から赤字幅が拡大しました。
- 期ずれ等の通期予想4.2億円の要因は、主に2021/1～3月におけるCBHから東邦亜鉛への鉱石売却予定がないため、2020/1～3月の親子間取引の売却益が残る効果によるものです。

利益(億円)		Q1実績 (A)	Q2予想修正 (B)	下期予想修正 (C)	通期予想修正 (A+B+C)
CBH社営業利益	エンデバー鉱山	▲2.4	▲0.9	▲1.7	▲5.0
	ラスプ鉱山	▲2.3	▲6.8	▲5.3	▲14.4
	その他	0.3	▲0.2	1.3	1.5
	計	▲4.4	▲7.9	▲5.7	▲17.9
期ずれ等		0.5	0.7	2.9	4.2
資源セグメント利益		▲3.9	▲7.1	▲3.0	▲14.0

4. 配当

前述のように通期業績は、前回公表時から上振れる見込みですが、一方で上期終了の時点では、今後の市況の動き次第ではありますが、未だ相応の業績下振れリスクが潜在する状況です。従いまして、前回公表時の方針の通り、配当予想は未定とさせていただき、2020年度の業績が見えてきたところで公表させていただきたく存じます。